

## 自己評価

|        | 現状分析と課題  | 改善策  |
|--------|--|--|
| ① 学校運営 | ○伝統ある地域の進学校として、文武両道を目指しに掲げ、生徒も教職員も学習や部活動に日々積極的に取り組んでいる。しかし、学校評価アンケートや中学校訪問による聞き取り調査によると、本校の教育活動や進路実績等が、必ずしも十分に理解されているとは言い難い現状がある。情報発信源の一つとしてホームページの内容を充実させるとともに、地域の中学校など広く広報活動を行っていく必要がある。   | ○教務部内に広報を担当する係りを割り当て、ホームページに限らず、学校案内やチラシ等も工夫し、中学校訪問や一日体験学習の機会を通して、教育活動や進路実績等について強くアピールしていく。  |
| ② 学習指導 | ○「質の高い授業を行うように努めている」「生徒の進路実現にあつた授業を行っている」への回答について高評価が得られたものの、教師と生徒・保護者の間では10～15%の開きがあつた(教師の方がいずれも高い)。生徒数の減少や時代の変化に伴う生徒の実態に即した授業への対応がまだ不足していると言える。  | ○教師の授業力の向上が第一であり、今年度は新たに校内における授業公開を実施したが、今後は授業研究会を増加させたり、地域への公開授業とするなど充実させていきたい。また、学習指導に関する情報がホームページで少なかったので、発信できるように努める。  |
| ③ 進路指導 | ○生徒、保護者、教員ともに「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計比率が増加の割合には差があるものの増えているものの、生徒が主体的に将来を見据えた進路決定をできるような進路指導と、それに伴う進学実績のさらなる向上を目指すには、指導方法や情報の内容についての校内での検討がまだ不十分である。   | ○どのような進路指導や進路に関する情報が、生徒の進路意識や進路希望の実現、進路実績を向上させるのか、今後検証を行いながら改善して行く。  |
| ④ 生徒指導 | ○各学期に一度、いじめアンケートを実施し、早期発見、対応に努めた。近年、増加しているSNSを通しての他人の誹謗中傷などの事案が発生したため、11月上旬に全校生徒を対象に通信機器の実態調査を行った。その結果、ツイッターは全校生の約79%が利用していることや、アクセス制限をかけていない生徒が高学年になるにつれて増えていることが分かった。<br>○交通事故の発生件数が現時点(2/10)で、前年度を上回る9件発生してしまった。事故の大半は交差点による確認不足が原因の事故であつたので、安全確認の徹底を呼び掛けていきたい。 | ○通信機器の実態調査を次年度は定期的に行うことを検討し、SNSの利用法について講師を招いての講話や指導する機会を増やしていきたい。また、アクセス制限については保護者にPTA総会などを通して協力を呼び掛けていきたい。<br>○警察官による交通安全講話を年に1度行っているが、次年度はスタントマンによるスケアード・ストレイト方式(交通事故の再現)による講習会の開催を検討していきたい。     |
| ⑤ 渉外関係 | 【PTA】<br>○小中学校のPTA活動と比べ、高校は一見地味かもしれないが、高P連、郡市、地域のP連合の派遣要請に応じて、保護者の方には多大なご協力をいただいた。<br>○PTA役員、保護者の献身的な協力があつて学校行事が成り立っている状況を見ると本当に頭の下がる思いであり、教職員は校内で生徒のことばかりでなく保護者、地域を念頭に職務にあたるべきだと考える。<br>○保護者と学校がつながるといふ点で、PTA係の仕事は保護者との窓口になると考えるが、校務と関係の薄い仕事もある。                  | ○PTA活動は、学校行事の他、高P連等の大会、研修会と多岐にわたり、その参加手続き、準備に多忙をきわめるが、地道な活動を続けるしかない。<br>○「本校はPTA活動に協力的である」を念頭におき、ホームページやPTA通信などを通じて本校PTA活動の広報に努め、相互に協力を図っていく。<br><br>○難しい問題である。「生徒の教育を協力して」と考え、できるかぎり協力していくべきであろう。 |